佐藤 美枝子
ソプラノリサイタル

チャイコフスキー国際コンクール声楽部門優勝、
世界の頂点を極めた奇跡のコロラトゥーラ、コラーレに登場。

2000年3月5日(日) 開場13時30分 開演14時
黒部市国際文化センター コラーレ(カーターホール)

ジョルダーニ　カロ ミオ ベン
マルティーニ　愛の喜び
ヘンデル　オンブラ マイ フ
ヴェルディ　歌劇『リゴレット』より　慕わしい人の名は
ドニゼッティ　歌劇『ランメルモールのルチア』より　狂乱の場
ほか

入場料：全席指定　S席 4,000円　A席 3,000円　B席 2,000円

お問い合わせ：財団法人黒部市国際文化センター　TEL 0765・57・1201

主催／財団法人黒部市国際文化センター・くろべミュージックスクエア　共催／北日本放送　後援／黒部市・黒部市教育委員会

5歳未満のお子様のご入場はご遠慮願います。一時保育(無料)を希望される場合は、事前にお申し込みください。

佐藤美枝子ソプラノリサイタル

1998年チャイコフスキー国際コンクール声楽部門優勝、世界の頂点を極めた奇跡のコロラトゥーラ、コラーレに登場!!

'98年６月末、モスクワで一人の日本人女性が割れんばかりの拍手に包まれていた。「チャイコフスキー国際コンクール・声楽部門優勝」。日本人ではヴァイオリン部門の諏訪内晶子以来、そして声楽部門では日本人初の快挙として、国内クラシック音楽界に衝撃と狂喜を同時にもたらした、ソプラノ・佐藤美枝子。世界の頂点を極めたこの驚異のコロラトゥーラが、ついにコラーレにやって来る！

'99年各地で賞賛の嵐を呼んだドニゼッティの歌劇『ランメルモールのルチア』をはじめとする有名なオペラのアリアや歌曲など、どなたにもお楽しみいただけるプログラムで贈る、極上のリサイタル!

――チャイコフスキー国際コンクール声楽部門での優勝おめでとうございます。ヴァイオリンの諏訪内晶子さん以来の快挙ですね。このコンクールについて説明していただけますか。

「チャイコフスキー国際コンクールは４年に１度、ちょうどワールドカップと一緒の年にあるんです。ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、声楽の４部門ですが、今回で11回目になります。最初の２回までは声楽がなかったので、声楽部門では９回目です」

――前もっての審査などがあるのですか。

「まず書類審査があると書いてあったんです。ですからもっと参加者は少ないと思って行ったら、130人くらいいたんですよ。６月20日から24日までが一次予選で午前中と午後は夜中まで。１日休んで26日から28日まで二次予選。人数は少なくなりますが、曲が多くなるので３日間。そして一日あけて本選が30日なんです。一次が受かったときは、よし、がんばらなくちゃという思いでしたね。本選に残ったのは私を入れて８名でした」

――二次予選が終わって本選までの間に課題曲を変更したということですが。

「コロラトゥーラソプラノのレパートリーにはチャイコフスキーの曲がないので、リムスキー＝コルサコフかグリンカの曲にしてよいという注記があったそうですが、今回はそれが記載されていませんでした。ちゃんと調べなかったのが悪いのですが、まさか変更できるなんて思っていなかった。二次が終わった段階で審査員の先生方が、もしかしたらあの日本人は本選にいくかもしれない、チャイコフスキーの曲は彼女に合わないから変えたほうがいいのではと、いろいろ話し合ってくださったそうなんです。結局リムスキー＝コルサコフのアリアに変更し、３日間で歌詞を覚えました。ロシア人の前でロシア語、しかもろくに勉強していないものを歌わなきゃいけないプレッシャーはすごかった。チェンジした曲がうまく歌えなければマイナス点をつけられますから、もう必死でした」

――音楽に対してイタリアと日本の違いは何だと思いますか。

「日本では必ずといっていいほど、どんなときにも拍手がきます。こちらでは大拍手があるかわりにブーイングもあります。恐ろしいことですが、こうした反応こそが歌い手を育てるものだと思いますね。チャイコフスキーコンクールのときも、いいと思わないと二次予選から拍手がないんです。曲と曲の間では拍手をしていけないといわれているんですけど、いいとすごい拍手で、ブラボーもとんでくる。アレッと思う人には全く何もない。日本の観客の方にも歌い手の出来、不出来の評価をして頂きたいですね」

――将来の夢は何でしょうか。

「歌えなくなるまでオペラの舞台に立たせていただきたい、というのがまず第一ですが、それには自分を磨かないといけないわけで、少しずつでもレベルを向上していけるようにしたい。

好きなオペラで今後歌いたいものはロッシーニの"オリー伯爵"の伯爵夫人とかドニゼッティのもの、ベルリーニの夢遊病の女とか狂っている女、などたくさんあります。狂い役専門みたいですけどね(笑)」

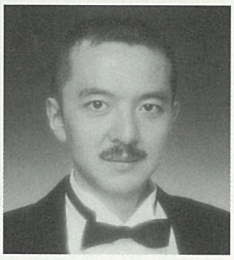
「音楽の友」1998年９月号より抜粋

PROFILE

ソプラノ

佐藤美枝子（さとう みえこ）

1984年大分県立芸術短期大学附属緑丘高等学校音楽科声楽コース卒業。
1988年武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業。
1990年(財)日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第９期修了。
高校在学中、大分県高等学校音楽コンクールを始め、全九州音楽コンクール、瀧廉太郎西部日本音楽コンクール等で入賞。1990年練馬新人オーディション入選。第10回飯塚新人音楽コンクール第１位。1994年第30回日伊声楽コンコルソ第２位。イタリア・サヴィリアーノ市歌劇場オーディション「椿姫」においてヴィオレッタ役で合格。1995年第２回藤沢オペラコンクール第３位。イタリア・ローマ市マンツォーニ劇場オーディション「リゴレット」のジルダ役に合格し出演。第64回日本音楽コンクール声楽部門第１位、併せて増沢賞、海外派遣特別賞を受賞。1996年第７回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。
オペラでは「ランメルモールのルチア」のルチア、「魔笛」の夜の女王、「リゴレット」のジルダ、「椿姫」のヴィオレッタ、「ウインザーの陽気な女房達」のアンナ・ライヒ嬢、「カルメン」のフラスキータ、「ナクソス島のアリアドネ」のナイアーデ、「ラ・ボエーム」のムゼッタ等に出演の他、「第九」のソリストも務める。1991年には、郷里大分で初ソロリサイタルを開催した。1999年１月には、ＮＨＫニューイヤーオペラコンサート、また新国立劇場「カルメン」のミカエラに出演。
これまでに、安部洋子女史、土谷正公氏、浦野りせ子女史、菊池英美氏、南條年章氏、松本美和子女史、L.フランカルディ氏、N.ボナヴォロンタ氏、G.パスティネ氏、S.クライマー氏に師事。
1997年ヴィッシ・ダルテ国際声楽コンコルソ入選。
1998年フランコ・コレッリ国際声楽コンコルソ入選。
同年、第11回チャイコフスキー国際音楽コンクール声楽部門第１位。
1999年第９回出光音楽賞ならびに第２回ロシヤ歌曲賞を受賞。
1999年10月、チャイコフスキーコンクール歌唱曲を新たに録音したＣＤ「至上のルチア」をビクターよりリリース。2000年１月には藤原歌劇団公演「ルチア」にタイトルロールで出演が決まっている。
藤原歌劇団団員。



ピアノ

村上尊志（むらかみ たかし）

武蔵野音楽大学音楽学部器楽科卒業。現在、藤原歌劇団や新国立劇場のオペラ公演において、コレペティトゥーア、練習ピアニストを務める。
また「市原多朗、出口正子ジョイントコンサート」「ニューイヤー藤原オペラコンサート」「折江忠道バリトンリサイタル」「林康子ソプラノリサイタル」「斉田正子ソプラノリサイタル」「東敦子おしゃべりコンサート」「五十嵐喜芳・麻利江親子コンサート」「片岡啓子ソプラノリサイタル」「G.カゾッラ・G.ジャコミーニ・R.ブルゾン　オペラコンサート」など、声楽を中心に多数の演奏会、リサイタル、ＮＨＫ-ＦＭ等に出演している。
1990年11月より１年間、文化庁芸術家海外研修員としてミラノへ留学。スカラ座の副指揮者及びピアニストであるMaestro Dante Mazzola氏に師事。在伊中、ミラノ、フェレンツェ、パリなどの各地でコンサートに出演。また、ヴェルサイユ劇場で「コシ・ファン・トゥッテ」の練習ピアニストとして参加。1997年10月より３年間、ローム・ミュージックファンデーションのスカラシップにより、再度イタリア留学の機会を得て、現在は日本とイタリアを往復する演奏活動を活発に行っている。